柳亭種秀作
一寿斎
國貞
十七編下
行題曲亭馬琴

東海道五十三次
錦昇堂
秀持
十七編上

東海道五十三次

郡里

十七編上

錦昇堂

秀梓

貳人の發句ハ菜を菜とハ喰せぬ梅の手際哉と庵丁家の妙處を穿つるあり とゝ浅草海苔ハ最上の美味ハれど徒爰て潔の珍奇とハ賞翫いなゝじと紅藍嫁が詞花と室町ハ咲せ直衣野服の織文と外套袴ハ染させく古今雅俗の寄せ物ハ味美く人氣を取看諸君のお口ハ適ひ〳〵梅ちらぬ柳の手際あり今其後段を調進るに師教ハ忘也稼ど割烹一ツル能ぬ掴新理〳〵を蹟較の剥身血の滴わど絞ても出ぬ智慧臺辨厨嚢へ餘飱拾ちん番るぞりゆゑ箸を下さん ちゆゑ

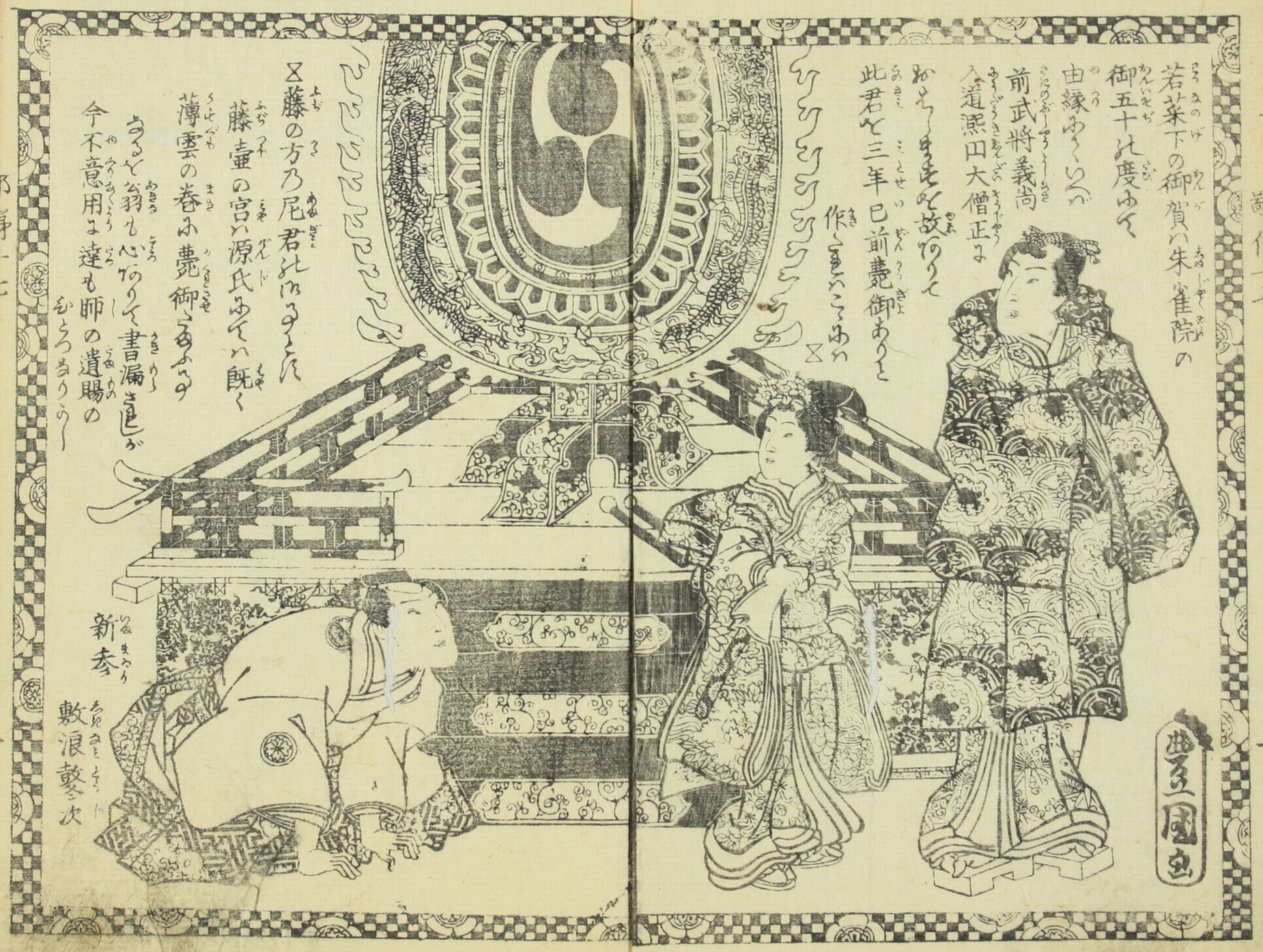
ゆゑし柳本文ハ賀宴の度舞樂の典行必ずり此ハ代るに能猿樂カブキの所作吏さへ取出せど水物細工の菊山茶花奇麗揃も又例のと厭ちく〳〵や思めさんその物を其りので出ぞ却て爰をかそらんの心本編ハ舞樂と舞樂でもゑせを繪採の少異あるハ潤沢のもの乾物の椎茸干瓢を補景と由縁ら〳〵らんぞるぞろと飲食仕立も古代ハ新理人をかもぞと稱し〳〵と同ば巻の名ハ柏木ハ因ちるあり

安政庚申孟陬

柳亭種秀

若菜下の御賀ハ朱雀院の
御五十九度ゆゑ
由縁ゆゑ
前武将義尚
入道潔田大僧正ゟ
おなじ事を故のりて
此君ゑ三年已前薨御あり
と
作ゑ
ゆゑ

藤の方乃尼君ゑ
藤壷の宮ハ源氏ゆゑハ既く
薄雲の巻ゟ薨御ゑあり
ゆゑ
今不意用ゟ達も師の遺賜の
ゆゑ



新季
敷浪斎次

仲

倉

倉千代
里若春王丸
氏仲の男子也
仲
里

柏

二
里

一色廣門の四男
旧瀬丸

此二人は
四郎
正尚
の子

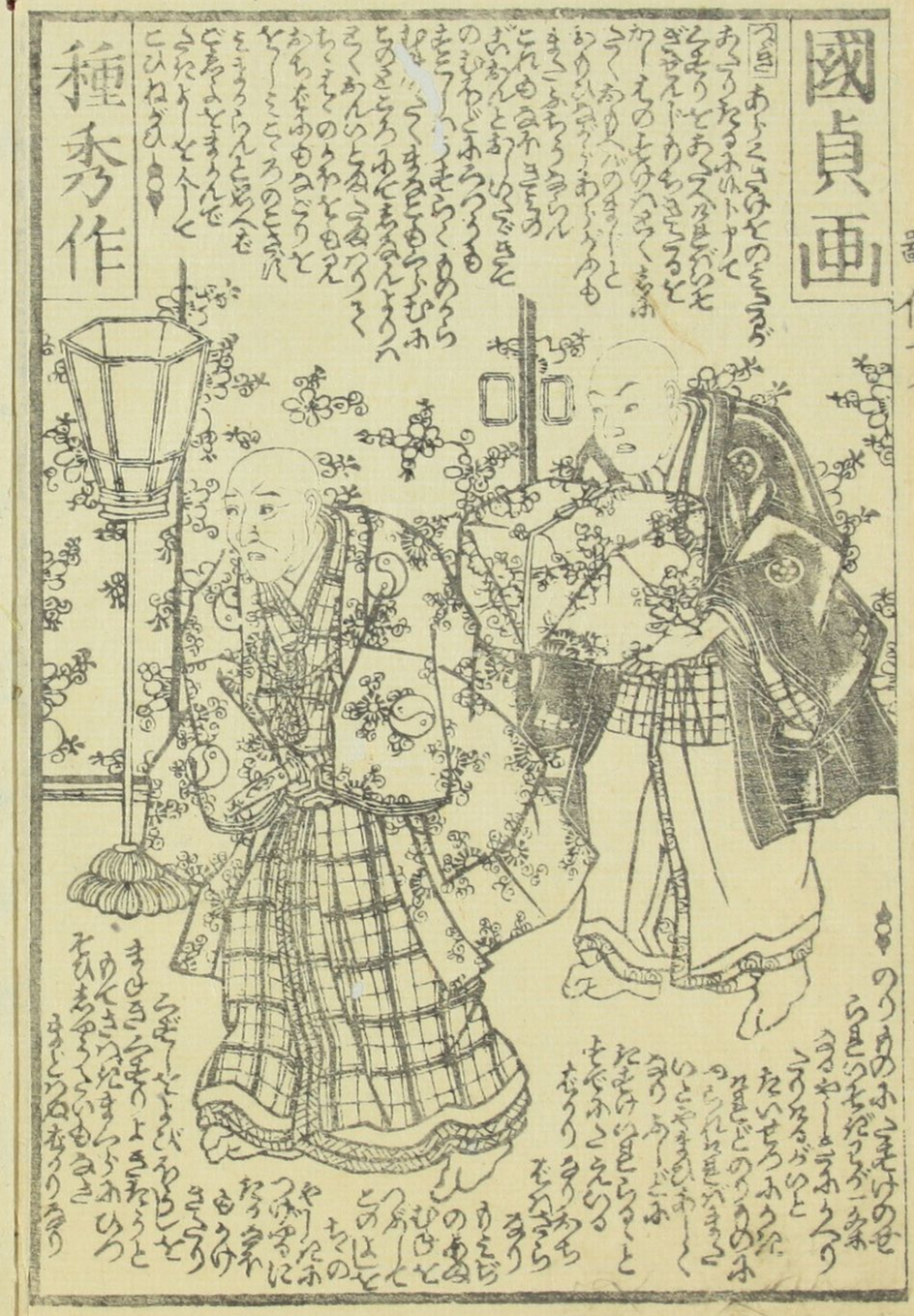
仲

柏

○倉千代落蹲の舞のところ

國貞画

種秀作



東海道富士詣

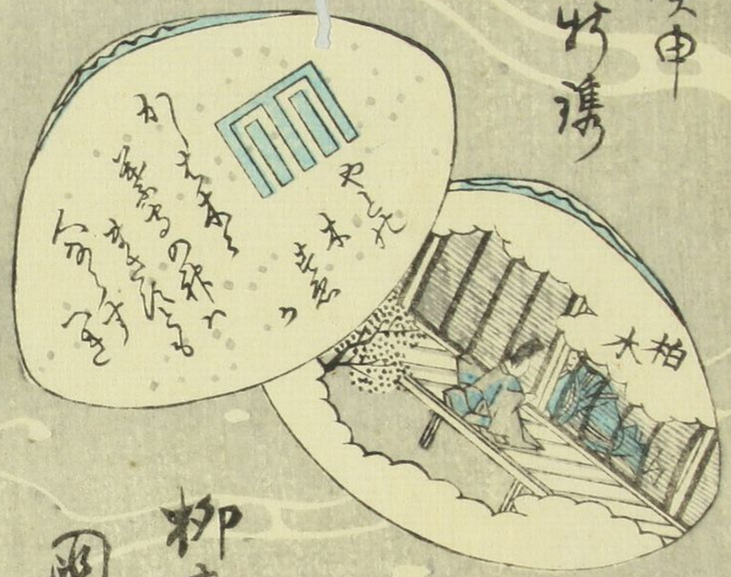
五場隅芳虎画

[illegible]

地本絵草紙問屋　照降町　笑壽屋庄七梓

柳亭
種秀作
一秀斎
國貞
画
十七編下
外題曲亭馬琴

庚申
竹馬



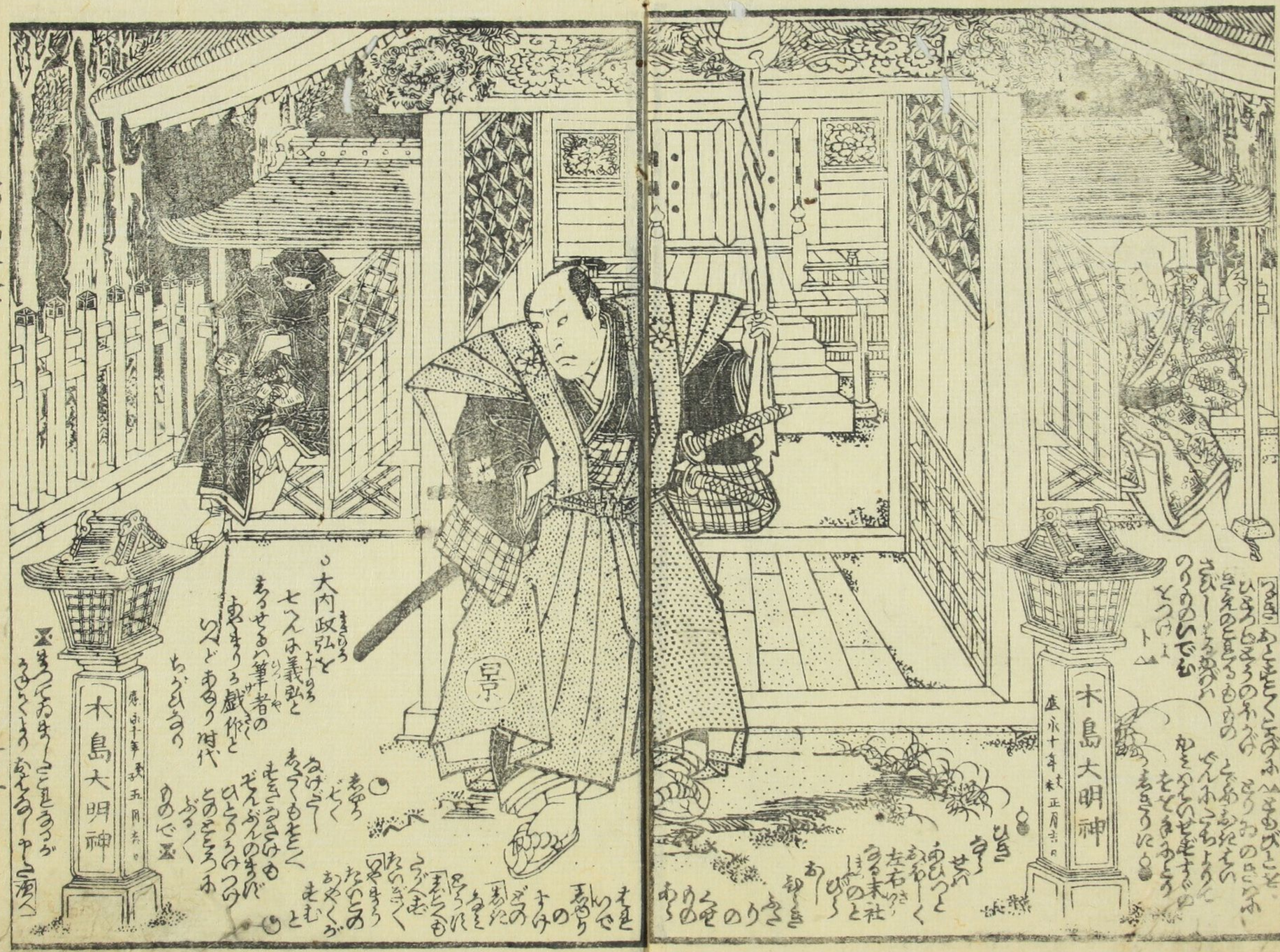
部丸面影

十七編下

柳亭作

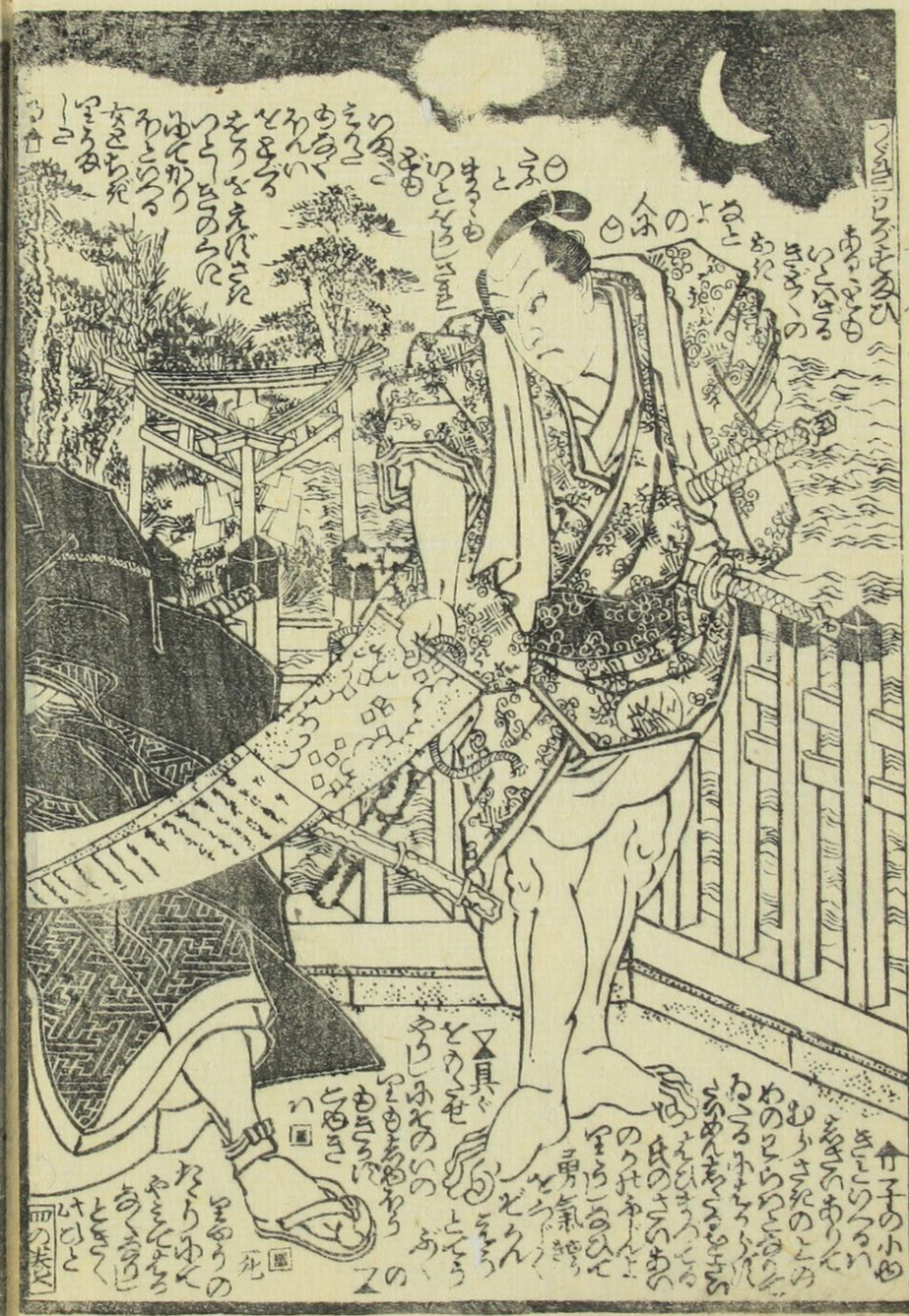
笑寿屋板

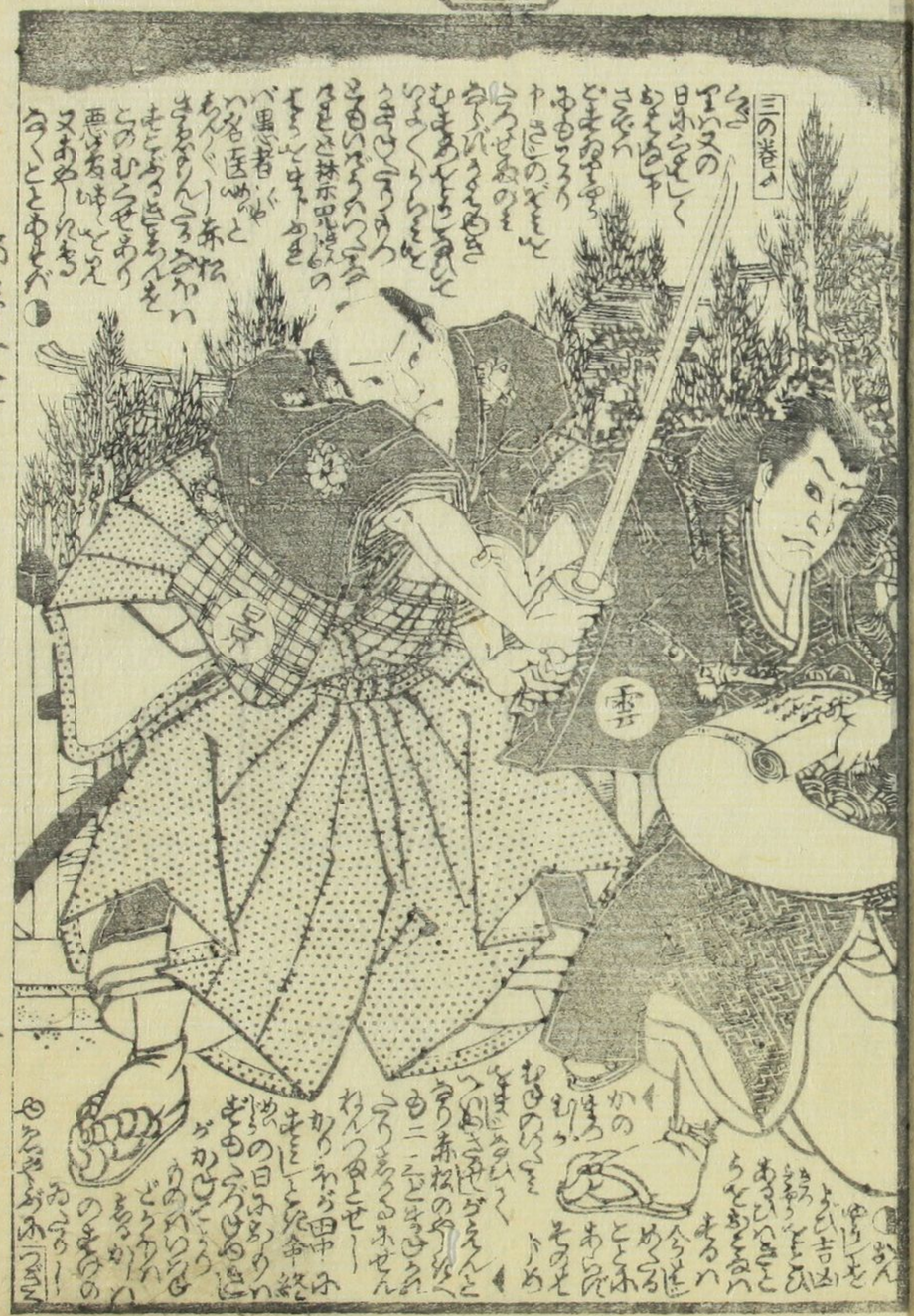
御神頭の墓
仙童快楽
陶氏修理亮


木島大明神
木島大明神

つぎ かつぐき雲齋さん
[左]ろくろくとしあを
ぬきこんぐさこんぐうて
のりのいをあくこうを
なりきこと死をとりくこに
ありのをろくこに
とこのまきまふきと
あろせよとをこ老よを
ろくこ次ふもこりじ
そのつこひのりのこや
くかこ了六でろ
どきこ之ちのぶひりし
によまりのぶーふ
えころめら見ろぐく
ゆげこきこりしがめ
ころまこよこもころこう
さ見ぶこも名とこ之る
ぶこ[illegible]ろうのぶ人
のきこようここきこ
[illegible]ーこ[illegible]その後
そのこのきこ[illegible]ぶこし
ぶころこふこのふ[illegible]ふ
こぶこ[illegible]ぶ
こ[illegible]ぶ
こ[illegible]ぶ
こ

清楚花





梅蝶樓画 柳亭著

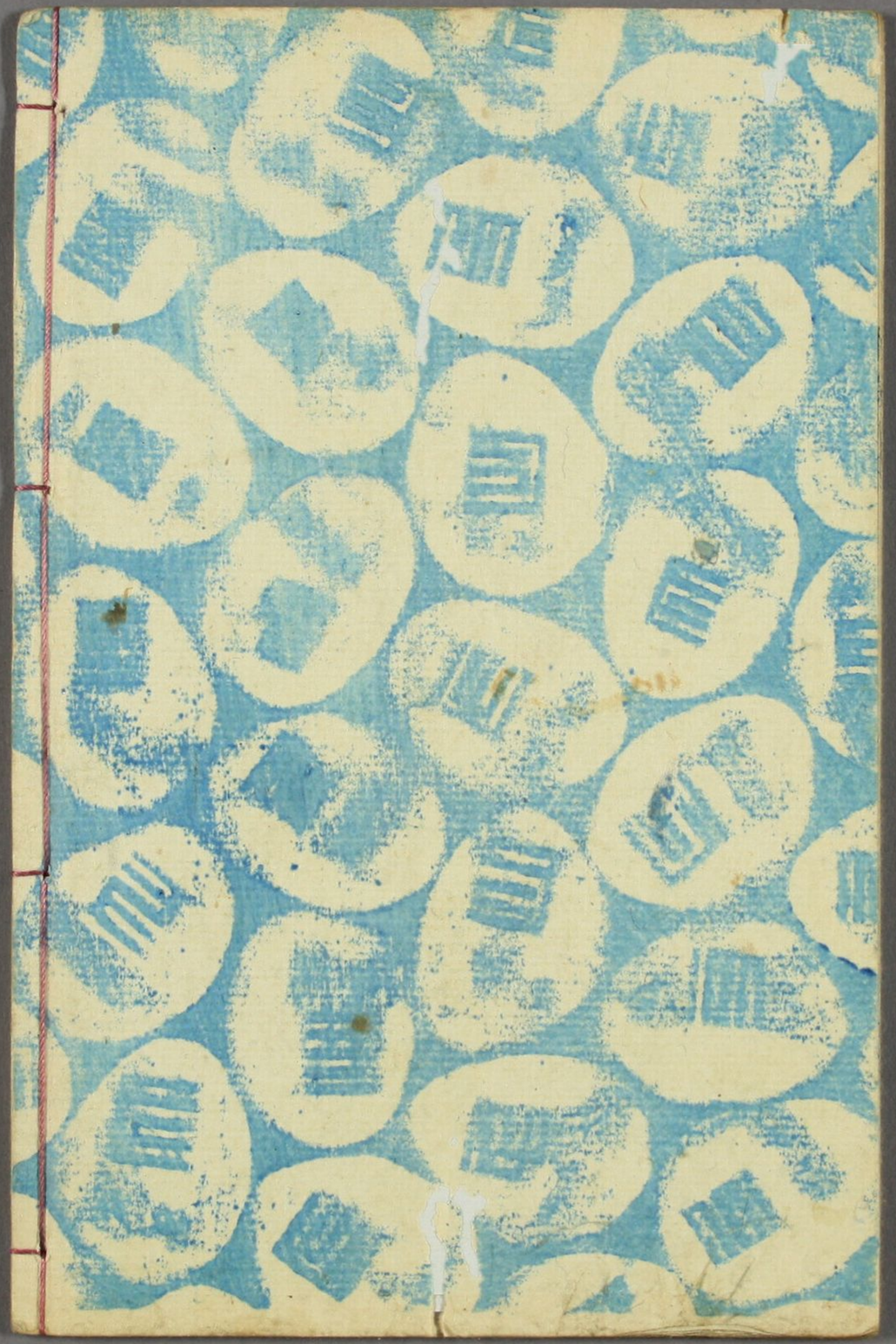
備書 交来

稲妻形 二十九編 種彦作
怪鼠標 二十一編 國貞画
子七編 二十三編

柳亭西馬稲
曾文作
國明画

其由縁鄙傳 種彦作
十勇士尾子の礎 五編 魯文作 六編 芳虎画
雨夜鐘四谷雑談 九編 魯文作 十編 芳虎画
比奈乃都大内譚 三編 種彦作 四編 芳虎画

地本問屋 江戸芝神明前 丁子屋
庚七



面影

十七編

柳亭種秀作

梅蹊樓國貞画

合九

錦昇文庫